

**第5回渚滑川ほか減災対策協議会  
第3回オホーツク西部減災対策協議会  
議事概要**

日 時：令和元年7月18日（木）13：30～15：45

会 場：興部町総合センター ホール

出席者：紋別市長、滝上町長、興部町長、西興部村長、雄武町副町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長補佐、紋別警察署警備課長、興部警察署長、紋別地区防組合消防長、オホーツク総合振興局副局長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針等
- (2) 幹事会報告
- (3) 取組状況のフォローアップ
- (4) 令和元年度以降の取組内容
- (5) 意見交換
- (6) 今後のスケジュール（案）

【事務局からの説明を踏まえた、各機関からの意見】

（紋別市）

- ・ 渚滑川の河道掘削について予算が付いたことや、地域と連携して電源車やポンプ車等を配備できたことを含め、スピード感を持った防災対応がなされていると実感している。
- ・ 災害時の連携については訓練のようにはないが、防災訓練では役場内や関係機関との連絡調整をいかにスムーズにしていくかが重要である。
- ・ 元々、災害の少ない地域であるので住民の意識・認識不足から、実際の避難に応じてもらえないこともあり、周知方法等が課題。
- ・ 現在約450人の外国人が住んでいるが、いかにコミュニケーションを図り、災害に対する備えを行うかが課題。
- ・ 秋には組織として防災監を配置する予定。

（滝上町）

- ・ 住民の対応として防災登録メールを推進しているが、配信サービスを登録している者が町民の8%（200人程度）と少ない。今後は高齢者対策を含め、固定電話やFAXによる配信も検討する必要がある。
- ・ 町内には自主防災組織が無いため、今後結成に向けた対応が必要。
- ・ 平成30年8月に防災訓練として職員を対象とした図上訓練（DIG）を実施しており、今年度は10月に北海道の防災総合訓練に合わせて実施を予定。
- ・ 訓練でできないことは実働でもできないので、今後取り組んでいきたい。
- ・ 町内を流れる渚滑川の支川（サクルー川）に危機管理型水位計を設置していただき感謝。
- ・ 渚滑川の道管理区間の浸水想定区域図が無いため、目安や情報の提供をお願いしたい。

(興部町)

- ・平成10年の災害で激甚災害の指定を受けたことを契機に、毎年、大雨・洪水と地震・津波の事象を想定した防災（避難）訓練を交互に実施している。今年度は10月に北海道の総合防災訓練に合わせて実施を予定。
- ・実際の災害において、支援物資を厚意で送られて来ると思うが、受け入れる体制が整わず滞る可能性が高い。西紋地区において、備蓄品も含め広域な役割体制が必要では。
- ・河川に対する予算が少ないと思う。定期的に河口部の土砂堆積除去や樹木の伐開等を進めてほしい。本州と地形等の条件が違うので、そこを理解してもらいたい。
- ・土砂災害警戒区域等の指定を受けているが、本当に危険なのか実感としてわからない。

(西興部村)

- ・本町は滝上町と同様に、洪水の少ない町と認識している。
- ・東日本大震災を契機に毎年訓練を実施しているが、自主防災組織が無いので、結成促進に向け、今後力を入れていきたい。
- ・防災マップを作成しているので、住民に周知していきたい。
- ・防災備蓄品を整備してきているが、冬の停電対応に係る「灯り」等の細かな配慮をしていきたい。
- ・ここ数年は冬期の吹雪を想定した訓練やセミナーを実施している。
- ・総務省の協力を得て、村内のケーブルテレビで吹雪情報を提供している。

(雄武町)

- ・昭和54年、平成10年、13年に大きな水害があったが、町内を流れる雄武川とホロナイ川の河道整備を進めていただき、氾濫の危険性が低減されていると実感している。引き続き整備をお願いしたい。
- ・昨年の胆振東部地震でブラックアウト（停電）を経験したことから、現在、町内の公共施設10箇所非常に非常用電源の設置を進めている。
- ・災害時、住民には防災無線、広報車や町内会長の声かけで周知するように努めているが、特に防災無線は風向きなどにより聞こえづらいことがあるため、周知しきれない。高齢者率が高いため、逃げ遅れゼロを目指していきたい。
- ・リアルタイム情報の発信方法を工夫していきたい。
- ・自主防災組織の組織率が低いので、立ち上げに取り組むたい。
- ・雄武小学校で一日防災学校を開催する予定。

(網走地方気象台)

- ・各自治体の訓練に対し、今後も協力を行っていく。
- ・今年から、台風の強度の予報が3日(72h)先から5日(120h)先まで可能になった。
- ・わかりやすい情報をタイミングよく配信したい。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・防災においては、最悪の事態を見据えた具体性のある計画が重要。
- ・防災訓練は実践的なものである必要があるため、シナリオ型ではなく、ブラインド型（状況判断型）での実施が必要。また、自治体横断型の訓練も実践的なものとして有効である。
- ・訓練を実施するノウハウを持っているので、地域と連携して取り組んでいきたい。

また、自衛隊OBが北海道庁に在職しており、防災訓練へのお手伝いを出来る環境が整っているため、自衛隊を活用してほしい。

(興部警察署)

- ・日頃から防災訓練を実施し、また各町村を流れる河川で警察活動を行うため危険箇所についての実態把握に努め、災害への備えを行っている。
- ・地域住民に対しては、発災前に住民意識を啓発する広報活動が重要と考えている。住民と接するあらゆる機会を活用して、災害に関する注意喚起や意識付けを行っていききたい。
- ・外国人への対応が問題となっている。来日する際の事前学習期間に、防災に関する指導等を行っている。
- ・今後も全国の風水害等の事例を教訓として、関係機関と情報を共有し連携を高め、役割を遂行していききたい。

(紋別地区消防組合消防本部)

- ・日頃から人命救助に対する対応を行っているが、人員不足について消防団の協力で対処している。
- ・近年、消防団員も不足していることから、HPやイベント等で積極的にPR活動を行い、勧誘活動に努めていきたい。
- ・災害発生時にしっかりと対応するためには、消防団員の安全管理がまず大事であり、ライフジャケット等の装備品を増強している。今後も計画的に拡充したい。
- ・今年度、紋別市の防災訓練が北海道の防災総合訓練とあわせて実施される予定。河川氾濫を想定し、住民避難訓練、物資運搬訓練、避難所運営訓練等を行う予定。関係機関が一同に集まる機会なので、訓練を通じた連携を図っていききたい。

(北海道警察北見方面本部警備課)

- ・訓練への視察・参加、住民への広報活動のほか、災害救助部隊の訓練を継続している。また、他機関と連携、協力しながら訓練等を行っていききたい。
- ・各種災害発生時には、リエゾン派遣、交通規制、避難誘導員派遣を行っている。
- ・職員の災害に対する意識向上も重要であり、大きな災害現場を知らない新人職員もいるので、災害が起きた時に何も出来ないことがないように訓練を継続していく。

(紋別警察署)

- ・防災講話、広報誌等を通じて住民の防災意識向上を図っている。
- ・多数いる外国人の技能実習生に対して、防災講話を実施して避難場所や避難経路を確認している。
- ・災害担当の警察職員だけでなく、警察職員全体として、日頃から被害状況を把握する訓練や災害用資機材の状況把握等を行い、災害発生に備えている。

(オホーツク総合振興局)

- ・平成30年度に危機管理型水位計を渚滑川協議会のエリアでは5箇所、オホーツク西部協議会のエリアでは1箇所設置した。引き続き水害リスクの高い箇所に設置していく。
- ・ホットラインの実効性を高めるため、水防タイムラインに組み込む考え。
- ・各自治体実施する防災訓練や研修会の企画立案について、道庁危機対策課の自衛隊

- OBによる支援制度がある。今年度は管内の紋別市、津別町、小清水町、滝上町において、この支援制度を活用した訓練が行われる予定。
- ・災害発生時の対応として、地域住民による「防災マスター認証制度」を実施しているので、住民に参加を呼びかけてほしい。
  - ・今年度は水害リスクの高い箇所、簡易型河川監視カメラの設置を計画している。設置箇所については関係市町村と打ち合わせを行っていきたい。

以上